



友愛の森(二中だより)



学校教育目標 二中文化を創造する生徒
 学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造
 令和5年4月10日発行

令和5年度 第77回 入学式 学校長式辞より(抜粋)

校長 望月 俊伸

82名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校は、昭和22年に創立された「自主・協力・追究」を校訓とする歴史ある学校です。本校の生徒であることに誇りと自覚を持ってください。また、ここまで育ててくださった保護者・ご家族の皆さまの愛情と、地域の方々の温かい見守りに対して、改めて感謝してほしいと思います。さて、これからの中学校生活で覚えておいてほしい、大切なことを三つお話ししたいと思います。

一つ目は「人は変わることができる」ということです。中学生になった皆さんの心と体は、これから日々成長します。小学生の頃とは変わっていきます。皆さんの中には、小学校時代、勉強が苦手、運動が苦手と、半ばあきらめかけていた人がいるかもしれません。友だちとけんかをしてしまい、仲直りできないまま今日を向かえ後悔している人がいるかもしれません。また、ちょっとした失敗をしてしまい、積極的に行動することに臆病になっている人がいるかもしれません。でも大丈夫です。「人は変わることができる」のです。今日から小学7年生が始まるわけではありません。中学1年生がスタートするのです。皆さん一人一人には大きな可能性があります。勉強にも運動にも粘り強く努力できる自分、友だちに対し優しく接することができる自分、失敗を恐れず勇気を出して何事にも積極的に取り組む自分。中学校入学は、自分を変える大きなチャンスです。また、自分だけでなく、変わろうとしている人がいたら、応援してあげてください。今日から、新しい自分としてスタートラインに立ち、中学生としての第一歩を力強く踏み出しましょう。

二つ目は、「時間を意識する」ということです。皆さんが本校で過ごす三年間という時間は非常に限られたものです。時間はいくらでもあるものではなく、限りあるものだということを常に意識して生活してほしいと思います。今日の記念に、皆さん一人一人に、中学校を卒業するまでの時間分の砂が入った「砂時計」を渡されたと想像してみてください。上の器から下の器に刻一刻と落ちる砂、一度落ちた砂は、もう二度と戻ってはきません。ゲームやスマートフォンばかりに夢中になって、貴重な時間を無駄にしてはなりません。また、他の人の大切な時間を、自分勝手な都合で、奪うようなことがあってもなりません。集団生活の中で規律を守ることは、自分と他の人の時間を大切にするという意味があります。時間は有限ですが、使い方は無限です。中学校生活3年間、どうか、有意義で生き生きとした時間を過ごしてください。

三つ目は、「自分を大切にしてほしい」「それと同じくらい仲間を大切にしてほしい」ということです。私は、学校生活の中で一番大事なものは皆さんの命だと考えます。健康や安全であってこそその学校生活です。何よりかけがえのない命を大事にしてください。これがなければ何も始まりません。また、これまで皆さんのことを大事に育ててくださったご家族や周りの方々のためにも、自分を大切にしてほしいと願っています。そして、自分と同じくらい仲間のことも大切にしてください。あなたと同じように、その人のことを大事に思う人がいるのです。だから、いじめのような自分も仲間も大事にできない行為は、絶対にしてはいけません。仲間というのは、仲の良い友だちに限ったことではありません。クラスの仲間、学年の仲間、ここにいるすべての人が仲間なのです。この仲間と出会えたことに感謝し、周りの人を大切にしましょう。周りの人を大切にすることで、きっとあなたも大切にされると思います。

今年度より本校校長となりました、「望月俊伸(もちづきとしのぶ)」と申します。14年ぶりに思い入れのある二中に戻ってくることができ、大変嬉しく思います。職員一丸となり、全ての子供たちの可能性を引き出すために、教育活動の推進に尽力してまいります。保護者の皆様、地域の方々のご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。1年間どうぞよろしくお願いたします。

令和5年度が始まりました

4月7日に82名の新入生を迎え、2年生104名、3年生99名、全校生徒285名と、教職員37名で令和5年度がスタートしました。

以下は代表生徒の決意です。(抜粋)



入学式 新入生代表 秋武 瑠那 さん

昨年参加した富士山学習発表会で、二中の先輩がステージの上で堂々と発表する姿はとても頼もしく、輝いていました。私もそんな先輩達の姿を目標に何事にも積極的に参加し、自分の意見を明確に伝えられるようになりたいと思います。「そのような自分たちの生活や学びの裏にはいつも周囲で支えてくださる先生方、地域の方々、来賓の方々、家族がいる。」このことを忘れずに、日々感謝しながら、富士宮第二中学校の名に恥じない、自覚ある中学生として、中学校生活でしか得ることのできない、多くの知識や経験を自分の糧にして進んでいきたいと思っています。

始業式 2年生代表 小林 咲輝 さん

特に勉強と部活をがんばりたいです。中体連で県大会に行けるように、みんなで教え合い考えて、良い結果が残せるようにしていきたいです。勉強では、受験に向けて授業の話をしっかり聞き、聞くだけでなく、自分が大切だと思ったことをメモしたりして、後から見ても分かるように工夫していきたいです。二中文化を大切に、意識して行動していきます。2年生になると後輩ができます。先輩方が実際に二中文化を意識して、2分前着席、1分前黙想をしたり、黙働清掃をしたりと先輩方の姿を見て学びました。私たちも後輩の手本となるようにしていきたいです。

始業式 3年生代表 塚田 乃葵 さん

私が3年生になってがんばりたいことは2つあります。1つ目は勉強です。私たちは受験生となり、今まで以上に勉強と向き合わなければなりません。そのため今までの復習などをしっかりして机に向かう時間を長くしていきたいです。また、授業では積極的に発表していきたいです。2つ目は、最上級生として後輩のお手本になれるような生活をする事です。勉強だけでなく、普段の生活から最上級生の自覚を持って過ごしていくことで、二中を引っ張る存在になりたいです。黙想、黙働清掃に取り組み、自分たちが集中できる環境をつくっていきます。

始業式 5・6組代表 堀池 明 さん

ついに3年生になってしまいました。僕はいつも先輩たちの行動を見てから自分の行動を決めていました。しかし、頼りにしていた先輩は先月卒業してしまいました。今日の午後、新1年生が僕たちの仲間に加わります。僕たち上級生を見て、自分の行動を決めるのだと思います。そう考えると、責任の重さにつぶされてしまいそうです。でも、僕はがんばります。今まで先輩たちにお世話になったことへの感謝の気持ちを示したいからです。この1年で大きく成長して、来年の3月に、後輩たちから笑顔で卒業を祝ってもらえるような先輩になれるように、精一杯がんばります。

生徒会長 馬飼野 愛加 さんの歓迎の言葉 (抜粋)

真新しい制服に身を包み、中学生としての第一歩を踏み出した皆さんは、今どんな気持ちですか? 「勉強をがんばるぞ!」「部活動で活躍したい!」「新しい友達をたくさん作るぞ!」といった積極的な気持ちと、「授業についていけないだろう」「どんな先生方がいるのかな」「クラスになじむことができるかな」といった消極的な気持ちが入りまじっているかもしれません。しかし、心配することはありません。二中で過ごしていくうちに、その戸惑いは消えて、忙しい毎日の中でも、歴史ある二中の素晴らしさ、そして、二中での生活を心から楽しんでいる自分に気が付きます。徐々に学校生活に慣れてきたら、少しまわりを見渡してみてください。いろいろなことが見えてくると思います。

5月には新型コロナウイルスが5類に移行します。多くの学校行事も、少しずつ通常通りにできるようになると思います。特に、「希翔祭」は二中を代表する、「二中らしさ」にあふれた、最も大きな学校行事の一つです。「二中らしさ」は「生徒主体」という言葉に言い換えることができます。生徒主体とは、私たちが自ら考え、行動し、二中を創っていく、ということです。希翔祭は、この「生徒主体」という言葉を軸に、生徒一人ひとりが役割を持ち、それぞれの個性を發揮して、企画・運営に携わり、生徒全員で創り上げます。誰一人として、欠けてはいけません。クラス、学年の垣根を越えた仲間とともに全力を尽くしてつかんだ成功や、一体感、そして感動は、みんなの心に残り、決して忘れられないものとなります。

皆さんの中学校生活は今日からスタートします。二中で過ごす日々は新たな感動に満ち、濃密な3年間はあっという間に過ぎていくことでしょう。一度きりの中学校生活、一日一日を大切に、何事にも全力で挑み、全力で楽しんでください。皆さんが少しでも早く、二中になじめるように、在校生一同、精一杯サポートしていきます。

